

2009 - 2010

ガバナーズ・テーマ
「自分の大切な友達(人)を仲間にしよう」

・
アクティビティ・スローガン
「笑顔で作る感謝の奉仕」

・
ガバナーズ・スローガン
「仲間意識で元気なクラブをつくろう」

2009-2010 年間主要行事予定

第1回キャビネット会議	2009年 7月28日(火)
ライオンズ奉仕の日	2009年10月 3日(土)
第2回キャビネット会議	2009年11月 6日(金)
第48回OSEALフォーラム(タイ)	2009年11月19日(木)～11月22日(日)
臨時キャビネット会議・賀詞交歓会	2010年 1月19日(月)
第3回キャビネット会議	2010年 3月15日(月)
330A地区第56回年次大会	2010年 4月24日(土)
330複合地区第56回年次大会	2010年 5月15日(土)
第4回キャビネット会議	2010年 6月14日(月)
第93回国際大会(シドニー)	2010年 6月28日(月)～ 7月 2日(金)

表紙作者
安達 巖 (大阪府 /1939年－2006年)
作品名 「帆船」※口で描いた作品



小学校4年の春に、感電して両腕を失った。事故以来母に死別、父と生き別れ、逆境に反発して天涯孤独な青年期を生き抜いた。絵は12歳の時に初めて口に筆をとった。両手のない身で生きるため、様々な職業を転々としたが、働きながら続けていた絵を、やがて一生続けられる仕事として選んだ。生活の全てを絵に捧げ、日本画、水彩、デッサン、油彩と様々なジャンルの技術を独学で習得し、30歳台で念願の家庭を築いた。多くの美術展に参加し活躍した。晩年まで絵への情熱は衰えず、細密な技術と勤勉さが特筆に価する画家だった。



The Lions News



ライオンズクラブ国際協会
330-A地区
地区ニュース速報号

発行日 2009年8月24日

発行 広報委員会

委員長 近藤 正彦

副委員長 柴田 誠

佐原 幸雄

委員 鈴木 郁朗

高尾 省吾

矢田部 満

奥山 慎

荻野 桂一

太田 正利

茅島 純一

山本 康弘

所在地 〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-10-17

新宿ダイカンプラザ B館 2F

TEL 03-5330-3330

FAX 03-5330-3370

2009.8
EXPRESS

地区ニュース速報版



今期国際会長のエバハルト・J・ヴィルフス氏のテーマは「Move to Grow」。イチョウの木と葉がこのテーマのシンボルだと述べられています。イチョウの歴史は古く、その原種は2億8000万年前まで遡ることができ、生命力が非常に強く、平均寿命が1000年というイチョウの木は、雄株と雌株の区別があるという、ユニークな木でもあります。

そのイチョウの輝かしい歴史、長寿、順応性、実用性、持続性、世界的な分布といった特性は、ライオンズクラブ国際協会との関係が見られると国際会長は考えておられ、ライオンズの各種プログラムは、イチョウのように長い間持続可能な資源でなければならない、常に私達のモットー「We Serve 我々は奉仕する」を心に留め、理解、そして息の長い社会奉仕の種を蒔き続けることが大切だと述べておられます。

いかなるものも、進歩、成長するためには推進力または動きが必要であり、国際会長のテーマ「Move to Grow」は、基本的なコンセプトで、ほとんど何にでも当てはまる概念だと思います。変化のないものに発展はあり得ないのではないのでしょうか。

私はミネアポリスにて国際大会の始まる前、7月3日から6日までガバナーエレクト・セミナーに参加し、国際協会から1年間お預かりする330-A地区ガバナーの心得を今期就任した753名のガバナーエレクトと共に勉強してまいりました。国際大会でガバナーに就任し、地区に戻ってくると人が変わると良く言われていますが、ガバナーとは、ライオンズクラブ国際協会を持続させる為に、国際協会から委嘱された役職であると、徹底的に叩き込まれて参りました。会員を増やし、優れた会員をライオンズクラブの活動に引き込むことこそ、長期にわたる会員維持の手段です。

私は、この1年を「原点回帰の年」「足踏みの1年」と位置付けております。ライオンズ全体の組織はもちろん、今ある一つ一つの組織を批判するのでは無く、何故、この様な組織になったのかという原点を見つめ直し、創設の意義を確認し、熟知した上で、今後のライオンズクラブの為には「いかにあるべきか」を探る必要があると考えております。先人の叡智を知り、現在のメンバー各位のお力をお借りして進めて行けば、必ずやその未来は素晴らしいものになると確信いたします。

以上の背景を踏まえて、今期の運営基本方針、3つのポイントを掲げさせていただきます。

1. リジョン・チェアパーソン

リジョン・チェアパーソンは国際協会付則によると現在は置かなくても良い役職となっております。既に廃止している複合地区もありますが、330-A地区に於いては、キャビネットとの強い絆を作るためには、リジョン・チェアパーソンの役職は絶対に必要と認識し、活用することを決めました。リジョン・チェアパーソンの方々はゾーン・チェアパーソン就任時の体験を基に、各リジョンのゾ



ミネアポリス国際大会にて石井征二前地区ガバナーと

ーン・チェアパーソンに懇切丁寧な説明と指導をお願いします。加えて、クラブとキャビネットを結ぶ、重要な構成員であるゾーン・チェアパーソンの職域を犯すことなく正しく導いて頂きたいと思ひます。

2. ゾーン・チェアパーソン

ゾーン・チェアパーソン必携を何度も良くお読みになり職務を理解して頂きたい。特にガバナー諮問委員会では議長となり、ゾーン内のクラブにキャビネットの統一見解を明確に知らしめる役割を持っており、ゾーン内の各クラブにしっかりと伝わっているかを確認することをお願いします。また、ゾーン内クラブで諸問題が発生し会長より相談を受けた時にはリジョン・チェアパーソンと速やかに連携をとり解決にあたって頂きたいと思ひます。

3. 地区委員会

14の地区委員会を設け、政策中心の委員会はキャビネット構成員である委員長を含め1委員会6名で構成。事業委員会は関連部門を集約し、構成員の委員長の下、2ないし3の専門委員会を設け副委員長を含めて5名で構成しました。また、事業委員会は継続事業等を行うにあたっては、横のつながりを重視し、垣根を取り払い、活動に必要な人材を専門委員会同士で補い、お互いが助け合う姿勢をとって頂きたいと思ひます。

私どもは、ライオンズクラブ国際協会より認証状をいただいたクラブに所属し、奉仕活動を行っておりますが、会員増強無くして存続は厳しくなります。故に、国際協会が望んでいるのはただ一つ、地区の会員増強のみの様に感じます。

私は昨年、副地区ガバナーに立候補した時より「大切な友達を仲間になろう」とお願いし続けてまいりました。「友達を仲間になれないような組織が長続きするはずはない」と励まして下さる方々がこの1年の間に確実に増えていることは確かです。

今期、私は、会員増強への努力を支援する為に、会員委員会・指導力育成委員会・エクステンション委員会・リテンション委員会と4つの委員会を設け、委員会どうし横の連携を強く持つMERLチームを編成いたします。

MERLチームはお互いに協力しあい、330-A所属200クラブに対して、各クラブが自クラブの現状をしっかりと把握する会議を何度も持ち、今後のクラブの将来像をきちんと作成していただくことを指導するとともに、成功しているクラブの情報をお知らせし、各クラブが自信を持って新入会員を招請することが出来るクラブにして頂けるように、この1年を費やして頂く事を期待しております。

「もし貴方が、過去の行いを知りたいと思うなら、貴方の現在のありようを鏡に映して御覧なさい。

もし貴方が、未来を見たいと思うなら

貴方の現在の行いを鏡に映してごらんください」

との諺がございます。

未来の「成功の果実」は私達が現在取る「行動の種」からもたらされます。330-A地区では昨年の年次大会で第一・第二副地区ガバナーの選挙が行われ、今期より河合、大石がそれぞれ就任されました。私はLionsのワンイヤー制度の良いところは認めるものの、引き継ぎを計画・準備することも重要だと考えておりました。そこで、長期計画委員会に次期と二年後にキャビネットのキーパーソンになる可能性のある方を推薦していただき、継続すべき問題を検討していただき、継続の強い絆を構築していただくこと期待いたします。

今期、私は畑を耕し、雑草を刈り、次に育てるべき事柄を見つけることが、メンバーの皆様から与えられた仕事であると肝に命じ、次期への発展の礎となることをお誓いいたします。330-A地区メンバーの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。私の基本姿勢といたします。

2009 - 2010年度
ライオンズクラブ国際協会
330 A地区 ガバナー

岡野忠生

岡野ガバナーはライオンズクラブの原点を見つめ直し、発展の礎を築くために、全クラブ訪問を目標として、出来るだけ多くのメンバーと意見交換し、アクティビティ現場でメンバーと共に汗を流し、クラブ独自の有意義な活動を地区内で情報共有すると共に、クラブの抱える問題解決にも積極的に取り組んでいる

